

受賞者《ヤマト運輸株式会社》 《京福電気鉄道株式会社》

＜路面電車を利用した低炭素型集配システム構築＞

- ・ 物流ターミナルと営業所間の輸送に路面電車を利用した集配システムを構築し環境負荷低減を図っている。
- ・ 出発駅にて集配用コンテナを搭載した台車を電車に積み込み、各駅で当該台車を下ろし、セールスドライバーがそのままリヤカー付き電動自転車に積み込み集配を行うことにより、地域の環境保全や渋滞緩和を図っている。

1. 背景

ヤマト運輸は、「車両台数の抑制」「低公害な集配車両の導入」「エコドライブの推進」「走行距離の短縮」、さらに「モーダルシフトの推進」といった取組みを通じ、宅急便事業のあらゆる局面で環境負荷の削減に努めております。

京福電鉄は、「京都議定書」を採択した地、京都という特に環境活動への関わりが深い地域に本社を置く企業として、また、「環境に優しい」公共交通機関である鉄道の利用促進が環境保全につながることを念頭に置き、鉄道事業のみならず事業活動に関する各分野において環境保全活動を推進しています。

今回の取組みでは、「歩くまち・京都」を掲げる環境モデル都市であり、「京都議定書」が発効された京都市において

- ① 物流ターミナル⇄嵐山担当営業所間の輸送に「路面電車～嵐電(らんでん)～」を利用
- ② 嵐山周辺はEVとリヤカー付き電動自転車を活用して集配

の2点の取組みを行い低炭素社会を目指すことといたしました。

なお、ヤマト運輸では、物流ターミナル間の鉄道輸送は既に一部で実施しておりますが、物流ターミナルから宅急便を集配する営業所間でのモーダルシフトは初めてのことです。

2. 取組みの内容

これまで、京都府久世郡久御山町にある物流ターミナルから嵐山担当営業所へ大型トラックで宅急便を輸送し、そこから2tトラックなどに宅急便を積みかえ配達していました。

今回の取組みでは、西院車庫から嵐電の車両を1両貸し切り、リヤカーに装着する集配用コンテナを搭載した台車ごと電車に積み込んで宅急便を輸送します。



(駅で電車から台車を降ろす様子)



(貸切電車で輸送)

終点の嵐山駅をはじめ、途中の嵐電天神川・蚕ノ社・帷子ノ辻・有栖川・嵐電嵯峨の各駅で台車を降ろし、駅でセールスドライバーが受けとって台車をそのままリヤカー付き電動自転車に積み込みお届けします。



(リヤカー付き自転車で配達へ)

3. 取組みの成果

現在、平日は貸切電車を朝夕計2便運行し、一日約400個の集配に活用しています。

結果、嵐電沿線におけるヤマト運輸の集配でのCO₂排出量は、実施前との比較で約30%削減することが出来ました。



ヤマト運輸株式会社

代表取締役社長

山内 雅喜

〒104-8125 東京都中央区銀座2-16-10

電話 (代表)03-3541-3411

URL <http://www.kuronekoyamato.co.jp/>

ヤマトグループの環境保護活動の総称を「ネコロジー」と名づけ、運送に関わる「包む」「運ぶ」「届ける」を中心とした環境にやさしい物流を築き、当社をご利用いただくたびに環境保護の想いをかなえられるよう取り組んでいます。



京福電気鉄道株式会社
Keifuku Electric Railroad Co., Ltd.



京福電気鉄道株式会社

代表取締役社長

西田 寛

〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町3-20

電話 (代表)075-841-9381

URL <http://www.keifuku.co.jp/>

環境理念

京福電気鉄道は、「地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つである」との認識のもと、環境の保全や資源の保護に配慮し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。